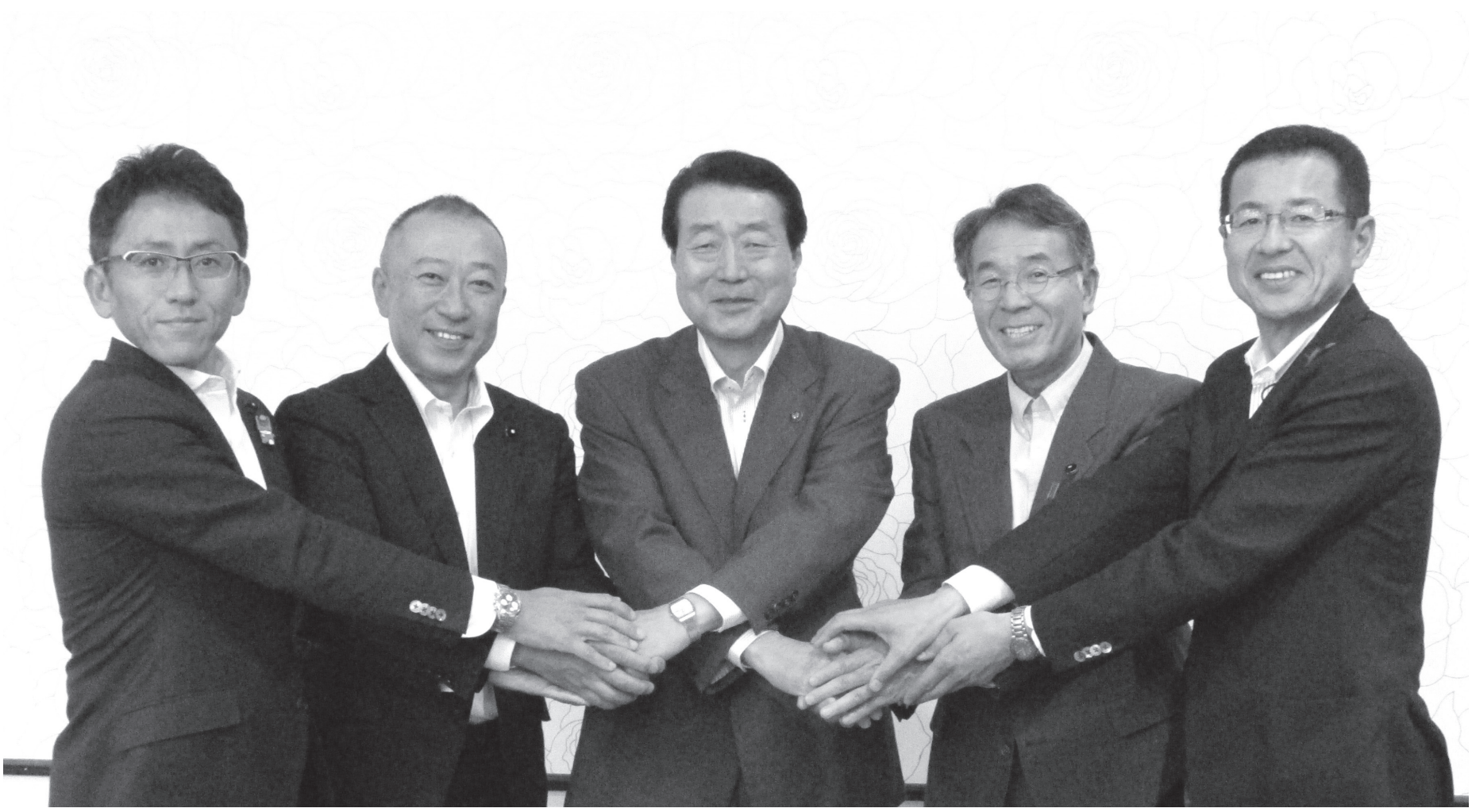
自由民主　（昭和30年6月15日第三種郵便物認可）　群馬県版号外

群馬県議会 自由民主党県議団☆県政報告

４月12日投開票の群馬県議会議員選挙で、「定数５」の伊勢崎市選挙区は自民党公認候補４人が当選を果たしました。共通する思いは伊勢崎市と県との太いパイプ役を務めること。４人の県議は五十嵐清隆市長とがっちり握手し、ふるさとの発展、群馬県の発展を固く誓いあいました。（写真は五十嵐市長を中心に、左から原、井下、臂、大和の４県議）

伊勢崎市の４県議 市と県のパイプ役誓う



人口の減らない群馬

大和　勲

伊勢崎市議４年の経験を生かし、伊勢崎、群馬のため働きます。

まず、人口の減らない群馬県づくり。雇用の確保を第一に、工業団地の造成、優遇策の提案で企業誘致を進めてまいります。20万人を超す人口を抱え、宮郷工業団地も順調に造成分譲が進んでおり、伊勢崎の潜在力は十分あります。

もう一つの柱は子育て対策。10年余りの保育現場の経験から、保育園・放課後児童クラブの改善、周辺環境をさらに改善します。

住宅政策の充実、群馬ブランドの向上も進めてまいります。

議会人として、住民の声を県に届け、監視機能に留意し、政策提案能力の向上に努めていきます。議員・議会の『見える化』のため、ホームページや県政報告会などで市民に情報を提供していきます。

自然生かし地域創生

臂　泰雄

国の施策の目玉である「まち・ひと・しごと創生法」をテコに地方創生に取り組みます。県や市町村が県内経済の積極的な活性化を図り、雇用環境の改善を行うことで仕事が増え、仕事が増えれば人が増え、定住人口が増えれば地域が元気になる、という好循環を作りだすことができます。

しかし、地方創生で考慮すべき大事なことが二つあります。一つは環境問題です。特に森林や河川など群馬の豊かな自然環境の保全と地球温暖化防止の視点から施策を見直すことが必要です。

もう一つは地域に「負け組」を作ってはいけないことです。

都市間の熾烈な生存競争を促すのではなく、それぞれの地域が持つ独自で貴重な文化や歴史を尊重し、地域資源を上手に結び付け、県内・県外も視野に入れて、すべての地域がより活性化し、共生できる実効性を持った施策を提案していきます。

暮しのまち

井下　泰伸

伊勢崎が群馬発展の牽引役になるよう取り組みます。東毛広域幹線道の全線が開通しました。上武道路も市内を走り、北関東道のインターチェンジもあります。鉄道の高架化も進み、働く場も多くあります。

「暮しのまち、伊勢崎」のポテンシャルはとても高いと思っています。

昨年の豪雪は驚きました。100年に1度の大雪と言われましたが、農家の中には壊滅的な被害を受けた方もいました。「なんとしても復旧しなければならない」の強い決意で臨み、県は復旧への「90％補助」をいち早く決めました。政治の力を感じました。

伊勢崎は県境のまちでもあります。埼玉県との交流を深め、世界遺産の田島弥平旧宅と埼玉の渋沢栄一宅を結ぶストーリーも描けます。政治の力で、人口減少に挑み、高齢者の暮らしを守っていける地域と確信しています。

伊勢崎から元気に

原　和隆

１期目の経験を生かし、全力で県政に取り組んでまいります。

境島村の「田島弥平旧宅」が昨年６月、富岡製糸場と共に世界文化遺産に登録されました。県内外から多くの観光客が訪れ、観光振興に大きく寄与しております。

８月には、東毛広域幹線道路（国道354号バイパス）が、約半世紀にわたる整備で全線開通しました。群馬県の東西の交通軸が強化され、利便性の向上が図られました。

宮郷工業団地の造成も始まりました。群馬の産業経済の要である伊勢崎がいっそう活性化することは、群馬県をさらに元気にすることに直結しています。この好循環を推進してまいります。

「活力ある伊勢崎から群馬を元気に！」の信条のもと、当下一念、頑張ってまいる所存です。